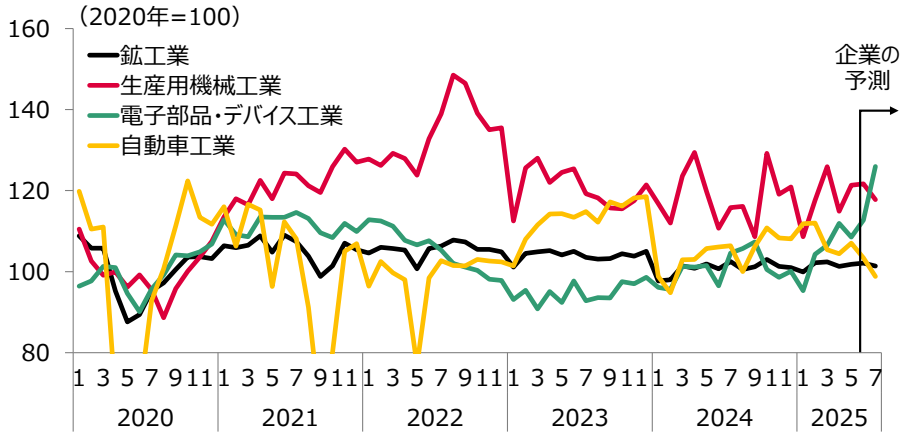
日本

鉱工業指数（2025年5月）

2カ月ぶり増産も横ばい圏の動き、先行き外需の下振れに懸念

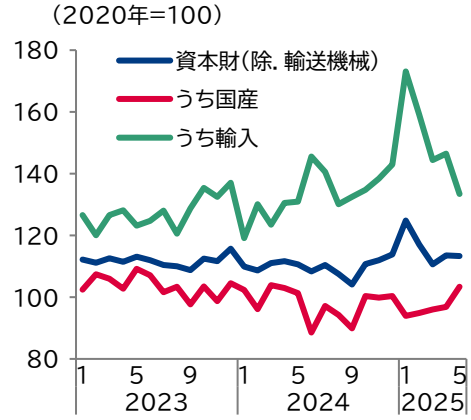
政策・経済センター
山本道也・堂本健太
03-6858-2717

1 鉱工業生産指数（業種別）



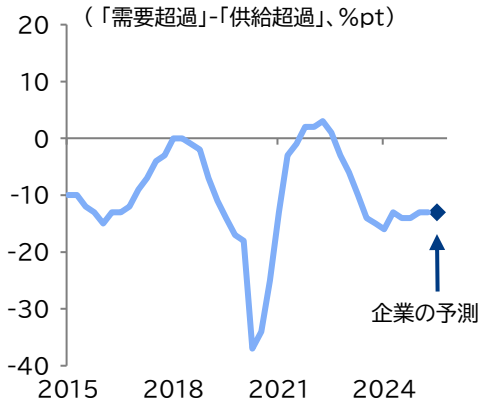
注：企業の予測について、鉱工業は製造工業、自動車工業は輸送機械工業の生産予測指数を接続。
出所：経済産業省「鉱工業指数」「製造工業生産予測指数」を基に三菱総合研究所作成

2 資本財総供給指数



出所：経済産業省「鉱工業総供給表」を基に三菱総合研究所作成

3 海外での製商品需給判断DI



注：製造業・全規模。
出所：日本銀行「短観」を基に三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 25年5月の鉱工業生産指数（季調値）は、前月比+0.5%（4月同▲1.1%）と2カ月ぶりに上昇した（図表1）。業種別に見ると、生産用機械工業（前月比+5.6%）や、汎用・業務用機械工業（同+4.5%）など全15業種中9業種が上昇した。
- もっとも、製造工業生産予測調査に基づく予測（経産省による補正値：5月前月比+5.2%）を大幅に下回った。特に電子部品・デバイス工業（実現率▲23.6%）などで計画からの下振れが大きかった。
- また、設備投資の一致指標とされる資本財総供給（除く輸送機械）指数は、4-5月平均で1-3月期を▲3.5%下回っている（図表2）。1-3月期に高めの伸びとなった反動もあり、4-6月期のGDP設備投資は前期比マイナスとなる可能性が高まってる。

基調判断と今後の流れ

- 企業の生産活動は、一進一退の動きが続いている。
- 先行きについても横ばい圏の動きが続くとみる。製造工業生産予測調査によると、製造工業の生産計画は、6月前月比＋0.3%（経産省による補正値：同▲1.9%）、7月同▲0.7%と慎重に見込まれている。
- 先行きの生産を左右するのは外需の動向である。6月の日銀短観によると、製造業における海外での製商品需給判断DIは▲13と前回調査から横ばい、3カ月先も企業は同水準を見込んでいる（図表3）。水準は低いものの、米国の関税政策の影響が懸念される中で、大幅な悪化を免れている。
- ただし、外需の減速に起因する生産の下振れリスクは大きい。米国で関税による物価上昇・需要抑制は今後顕現化するとみられ、日本の生産にも下押し圧力が加わる可能性が高い。また、日米関税交渉は難航しており、米国向け輸出に対して想定以上に高い関税率が課せられれば、輸出・生産の下押し圧力は一段と大きくなる。

Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.